

気仙沼市教育委員会主催 幼児教育の推進体制構築事業

平成30年度 幼保小連携・接続研修会

日時：平成30年8月24日(金) 13:20～

場所：気仙沼中央公民館 3階会議室



気仙沼市教育委員会

気仙沼市教育委員会主催

幼児教育の推進体制構築事業 平成30年度 幼保小連携・接続研修会 次第

(受付開始 12:50)

1 13:20 開会 司会・進行 気仙沼市教育委員会 学校教育課
主 査 小原 聖

(1) 開会のあいさつ 気仙沼市教育委員会 教育長 齋藤 益男

(2) 日程、グループごとの話合いについて

(3) 講師の紹介

2 13:30～14:50 研修講話

◇ 演題 「幼児の見取りと教師の関わり」

◇ 講師 お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 教授 浜口 順子 先生

3 14:50～15:00 質疑・応答

～ 15:00～15:10 休憩 ～

4 15:10～16:00 グループごとの話合い(12小学校区)

◇ ファシリテーター 宮城教育大学 幼児教育講座 教授 佐藤 哲也 先生

(1) 各施設の幼児・小学生に見られる課題について

(2) 小学校入学前の年長児に付けたい力について

(3) 付けたい力を育てるための見取りと教師のかかわり方の見直しについて

5 16:00～16:10 総評(指導・講評)

宮城教育大学 幼児教育講座 教授 佐藤 哲也 先生

6 16:10 閉会

○ 閉会のあいさつ 気仙沼市教育委員会幼児教育コーディネーター

本日の話題

- 様々な子どもの姿を写真から見取る
- 保育の中の「見る」
- 倉橋惣三の見取ったもの(『育ての心』から)
- 子ども「一人一人」を見取るということ
- 幼保の子ども同士の見取り
- モノを介して一人一人を活かす
- 小学校の「一人一人」を活かした生活
- 見取り(理解)とはどのようなものか

「幼児の見取りと教師の関わり」

お茶の水女子大学
浜口 順子

子どもを見取る：多様な視点の交錯

- 直接的にかかわる (いま、その場で) 見る
- 振り返る リフレクション
 - 話しあう (過去の自分・他者の目)
 - 記録記述 (うまく書けない、現実とのギャップ)
 - ビデオや写真 (写実と事実のギャップ)
- 間接的にかかわる
 - ⇒ 知らない子どもを見る
(同時代・異文化・昔日の子ども)
 - 自分が子どもだったことを捉える。

保育の中の「見る」

- 見守る mimamoru
 - 日本的なことば (見る+まもる)
 - 英語に訳しにくい
 - 見取る・・・「理解」とほぼ同義
 - 見る+とる(受け取る?)
- 「観察」「視察」「監視」・・・とはどう違うのか。

ある元小学校教諭Aの話:

A: 生活科が出来た頃、私は小学校に戻ったんですけど、ある先生が「まさか、みんなで朝顔なんか播いていないでしょうね?」と言っんですよ。「今はもう、生活科の時代ですから、一人一人好きなのをやるようにしなきゃいけない」みたいに言うんだけど、私はそれは違うと思った。同じ朝顔であっても、関わり方が違うっていうのが子どもでしょ。

B: 一人一人違うことをやるのが一人一人を活かすとは言いきれない?

幼稚園の実習生の話:

- 一人の子どもから離れられない
- 全体が見えない
- ⇒ 一人一人と集団を別別に捉える
- けんかが起こらないことを祈ってる
- ⇒ 喧嘩のない状態が常態という捉え
- どこまで一緒に遊んでいいのかわからない
- これだけは「だめ」というときは叱る(おこる)ことができる ⇒ 保育者(大人)の能動性をマイナス(必要悪)にとらえる傾向

倉橋惣三の「一人一人」概念

「一人の尊厳」(『幼児の教育』1923年4月号巻頭言から)

人間は一人として迎えられ、一人として遇せられるべき、当然の尊厳をもって居る。ただに、人間ばかりでなく、宇宙の一物といえども、のみな個体の存在をもって居るのである。人間において、特にその尊厳を持つ。

これは、必ずしも、心理学的にいわれる個性の別という意味ではない。個性は相対的のものであって、一人の価値はその個性の価値であるが、人間の一人は絶対のものである。……

今われ等は、新しき子供を迎えた。一団の新入園児を迎えたのでなく、一組の新入学生を迎えたのではない。われ等の迎えたものは、その一人一人である。一人一人が、人間としての一人の尊厳をもつて、われ等の前にあるのである。

……幼きが故に、一人の尊厳に、一豪のかわりもない。(1923)

『就学前の教育』(1931)から

教育方法としての社会的ということとは、ただ集合的ということでもなく、集団的ということでもない。そこに十分なる相互の交渉の行なわれることを要する。(中略)幼児の年齢に適せる群(グループ)によって、その生活を相互ならしむることに努める。ここにおいて、教育の管理責任は一集団たる園または組、教育の責任単位は幼児一人ひとり、しかして教育の方法対象は群ということに考えられる。

ぼくもこの前こけたんだ

年少のTとGがダンゴ虫がたくさんいる場所を教えなくて、頭を寄せあいなながら、ダンゴ虫を見ていた。K(1歳児)がつまづいて転んだとき、Gが同じように痛い顔をして、Kと一緒に手を払いながら、「ぼくもこの前こけたんだ」と言う。「私も」とY。Kにとって、「大丈夫？」よりも、心に届く言葉だったようで。泣くこともせず、二人の会話をじっと見ながら聞いていた。

(5月31日 保育士の記録)

9

「らんぼうもの」のSちゃん

年長児で「らんぼうもの」と言われることもあるS。とどききナーサリーにふらりとやってくる。

ある日ヤモリを見せにナーサリーに来たが、もう子どもたちは昼寝にはいっていた。保育士が小さい声で「ちよっと見ていく？」というと、赤ちゃんAの枕元に正座をしてみている。つい、ほほをつつく。そろそろ起きる時間でもあったのだが、Aが起きた。

11

「だめっていつちやいけないんだ……」

KがSに対して、「ダメ！」と強く言うと、傍にいた年長男児が、「ダメって言っちゃいけないんだ……」とKに言うわけではなく、ポツリと言うと、カッとしていたKが、止まって、何か考えている。年長児のつぶやきの力は大きい・保育者が同じ言葉を言っても、同じ反応にはならなかっただろう。

(6月5日 保育士の記録)

10

Sは幼稚園にもどりがけしたが、保育士がおむつを替えようとすると、また「見る」と引き返してくる。「恥ずかしいからちよっと離れてみててね」というと、そのとおりにして、見ている。そして「うちには、あかちゃんいないんだ」と言う。

幼稚園に帰ると、なんだか様子が違うので教諭が「ナーサリーでなにかあったの？」ときくが、「なにも」と言っただけ。簡単には言われない何かを経験したのかも知れない。(保育士の想起)

12

- この時期(この学年は)、個人の予定だけでなく、その日の時間割を子どもたちが作っている。
 - (先生が「算数入れて」というと、調整する)
- 幼児期から各自が育て蓄積してきている国語の知識やセンスを使った授業。それを友達と共有する面白さ。(遊びと学びの融合)
- 「滑らかな接続と適度な段差」
 - これはもっと先に勉強することなどだけ・・・
- 急に先生の基にきて、プライベートなことを小声で言って席に戻る子ども (2学期あまりいなくなる)

担任教諭いわく:

幼児期は、それぞれの子どもでその日のゴールが違っていい。1年生では、「ここがゴールだね」ということを共通了解できるようにしている。

一人一人を活かしつつ、社会的というより、公的な(共有することを楽しむ)人間関係を学びにつなげていると言えるのではないか。

見取り(理解)の条件

- ・相手を自分とは違う存在と認め、尊重すること
(対話的關係)
- ・完璧な(正しい)理解ではなく、よりよい理解を求めること

参考:O.F.ポルノー『理解すること』

ワークショップ

○ ワークショップの目的と進め方の説明（副参事 小野寺）：3分

○ 佐藤先生の自己紹介：2分

○ ワークショップ

1 各施設の幼児・小学生にみられる課題についての情報交換→ 『課題の共有』：6分

(1) 自分が所属する施設・学校の「年長児」または「1年生」にみられる課題を付箋に書く。

※ 幼稚園・保育園はピンクの付箋に 小学校は青の付箋 1項目につき1枚で

(2) 付箋をもとに、学校の課題と年長児の課題をグループで整理し共有する。

※模造紙に、上段は学校、下段は保育施設に分けて整理する。

各付箋紙を「育てたい力」ごとにグループ分けをする

2 小学校入学前の年長児に付けたい力について→ 『特に付けたい力の共有』：7分

(1) グループで共有した課題をもとに、小学校入学前まで年長児に付けたい力を話し合う。

※ 黄色の付箋に 1項目につき1枚で

(2) 特に付けたい力を1～2つ選ぶ

※ グループ分けをし、書いた付箋をもとに、グループ内で説明しながら、特に付けたい力を絞っていく

3 付けたい力を育てるための保育活動（見取りと教師のかかわり方）の見直し：25分

(1) 選んだ特に付けたい力について、①どのような活動を行い、②教師はどのように見取り、かかわっていたかを出し合う。

(2) これまでの見取りとかかわり方をもとに、①どのような活動が必要であり、②そのなかでどのように幼児を見取り、かかわっていくことが大切かを話し合う。

4 全体での共有：

グループで話し合ったことの紹介

※コーディネーターが発表するグループを選んでおく。

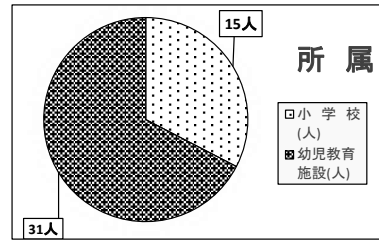
○ 佐藤哲也先生からのまとめ：10分

平成30年度「第1回幼保小連携研修会」参加者アンケート 集計

と き:平成30年8月24日(金)13:20~
 ところ:気仙沼中央公民館3階会議室

■ あなたの所属について(○で囲んでください)

小学校(人)	15	33%	(行政 1)
幼児教育施設(人)	31	67%	
合計(人)	46	100%	



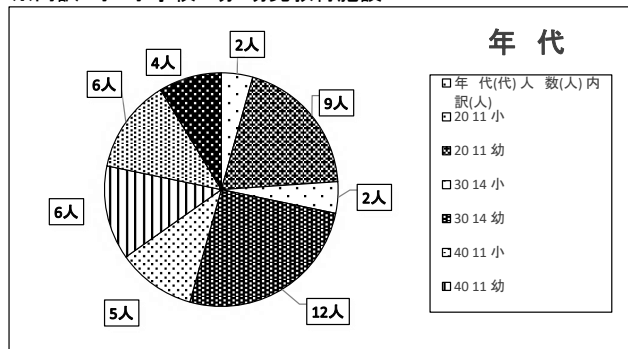
参加者数(人)	回答者数(人)	無回答(人)
47	46 98%	1 2%

■ あなたの年代と経験年数について(○で囲んでください)

(1)年代

年代(代)	20		30		40		50~		合計	
人数(人)	11		14		11		10		46	
内訳(人)	小	幼	小	幼	小	幼	小	幼	小	幼
	2	9	2	12	5	6	6	4	15	31
(%)	24%		30%		24%		22%		100%	

※内訳 小:小学校 幼:幼児教育施設



(2)経験年数

年数(年目)	1	2	3	4	6	7	8	9	10	11
人数(人)	1	2	3	1	1	1	3	1	1	2
年数(年目)	12	13	14	15	16	17	18	19	20	24
人数(人)	2	1	1	2	3	3	3	1	1	2
年数(年目)	27	28	30	31	32	35	無答	合計		
人数(人)	1	2	1	1	2	2	2	46		

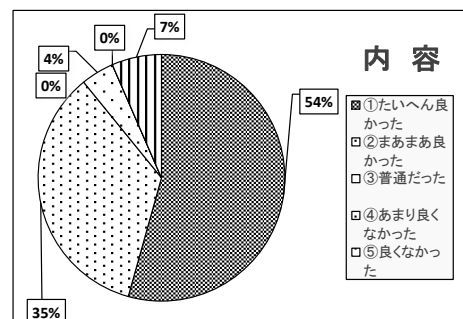
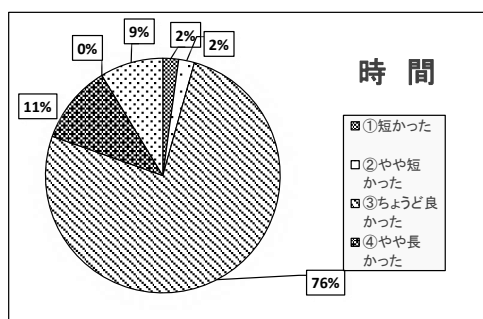
■ 研修会全体について

(1)研修会全体の時間はいかがでしたか?

質問項目	①短かった	②やや短かった	③ちょうど良かった	④やや長かった	⑤長かった	無答	合計
人数(人)	1	1	35	5	0	4	46
(%)	2%	2%	76%	11%	0%	9%	100%

(2)内容はいかがでしたか?

質問項目	①たいへん良かった	②まあまあ良かった	③普通だった	④あまり良くなかった	⑤良くなかった	無答	合計
人数(人)	25	16	2	0	0	3	46
(%)	54%	35%	4%	0%	0%	7%	100%



■ 研修講話について(自由記述)

所属：幼児教育施設

《 20代 》

- ・ 幼児一人一人を見守る大切さや受け入れていく必要性を強く感じました。 (教諭)
- ・ 幼児教育の中で、教師の見取る力や子供たちの嬉しさや、戸惑い、様々な気持ちを受け止め共感する事大切さを改めて教えて頂きました。 (教諭)
- ・ 倉橋先生の言葉を解説していただきながら、子どもたちの育ちの見取り、そのための教師の“心もち”について教えていただきとても感動しました。 (教諭)
- ・ 幼児の見取りと教師の関わりについて、倉橋先生のお話からハッとさせられることが多くありました。現代の子どもたちに多く当てはまると感じました。 (教諭)
- ・ 貴重なお話をうかがうことができ良かったです。 (保育士)
- ・ 時代によって注目される言葉が、変わってきた理由を知ることが出来、興味深いな、と思いました。(発達と育ち・一人一人と個性) 小学校の活動について、なかなか見る機会がないので、協力しあって意見を言い合う等の姿を見て良かった。 (保育士)
- ・ “一人ひとり”という言葉の捉え方や子どもの“見取り”について改めて考えさせられた。子どもとのよりよい関係を築いていくために見取りや理解力を深めていきたい。 (保育士)

《 30代 》

- ・ 子どもの子持ちになって考える大切さを改めておもいました。“おだんご”の話は、経験があり考えさせられました。 (教諭)
- ・ 見取る・見守るということを無意識に行っていたが、もっと意識して、子どもとかわる一瞬一瞬を大切にしていきたいと感じた。 (教諭)
- ・ 写真からの子どもの見取りが、様々な角度から様々な考察ができ良かったです。 (教諭)
- ・ 倉橋惣三さんの一人一人の概念が心に残りました。一人一人を大切にしていこうと思います。 (教諭)
- ・ 基礎知識を増やしてまた臨みたい。 (保育士)
- ・ 倉橋惣三さんについてももっとくわしく調べてみたいと思いました。 (保育士)
- ・ とても貴重なお話が聞けて良かったです。ありがとうございました。 (保育士)
- ・ “一人一人”が大事であると再確認できました。 (保育士)

《 40代 》

- ・ 久しぶりに倉橋先生のことを聞かせて頂き、温かい気持ちになりました。“見守る”という言葉は、いつも使っています。お家の方への連絡帳にもよく使う言葉だなあと感慨深く思いました。 (教諭)
- ・ 「子ども一人一人を大切にする」と言うことは理解していましたが、今回改めて「見取り」の大切さを学びました。 (教諭)
- ・ 子ども一人一人を見取ることがいかに大切なのかを学ばせて頂きました。保育の中でも一人一人を大切にしながら関わっていききたいと思います。 (教諭)
- ・ 今後の保育にも活用していきたいです。 (保育士)
- ・ 「見取り」という新しく耳にした言葉に、大変考えさせられました。 (保育士)
- ・ 先生の話の中で、自分と他人が違うことを受け止められることが対話性を育むことであるという事がとても印象的であった。他人を認めることは、自分を認めてもらう事がまず大切と考える為、自分を肯定できるような保育をする工夫が大切と感じた。 (その他 (行政))

《 50代 》

- ・ 浜口先生のご講話は大変すばらしく勉強になりました。少し難しいところもありましたが、「幼児の見取り」大変考えさせられ明日からの保育に実践していきたいと思います。(一人一人、個々・勉強になりました) (園長)
- ・ 本日は「幼児の見取りと教師の関わり」についてご講話をいただきましてありがとうございました。私自身4歳

児5歳児30名の担任をしているので、一人一人を見取って、よりよい保育をしていきたいと思います。(保育士)

- ・自分の保育に対する意識を再確認できて良かった。(保育士)

所属：小学校

《 20代 》

- ・非常に勉強になるお話でした。今後活かしていきたいと思います。(講師)
- ・子どもの「見方」について、様々な視点があることを知った。と同時に、普段自分の目で見ている子どもたちの姿や捉えも、一面であると気付くことができた。集団のなかの「一人一人」の捉えについて、今後意識していきたい。(教諭)

《 30代 》

- ・“見取り”という点では参考になったが、連携・接続という視点での内容も聞きたかった。(教諭)

《 40代 》

- ・「幼」と「小」の違いが分かりやすかった。「幼」の視点が参考になった。(教諭)
- ・「見取る」ということについてもう一度資料を熟読して勉強したいと思いました。(教諭)
- ・幼児の行動等を“どのように見取るのか”“教師はどのように関わると良いのか”という視点で話を聞いてみたかったです。(主幹教諭)
- ・子ども「一人一人」を見取るということについて、考えさせるために写真をもとに様々な見方を具体的に提示された。先生のお話により人間の成長の中で乳幼児期、児童期は大事な時期なので私たち大人が一人一人しっかり見取っていくことが大切だと改めて感じる事ができた。(教諭)

《 50代 》

- ・久しぶりに幼児教育や保育に関する講話をきかせていただき、改めて幼児教育の大切さと小学校低学年との連携の重要性を感じました。(教諭)
- ・児童を見取ることの大切について、くわしく話していただきとても参考になりました。今後に役立てたいと思います。(教諭)
- ・浜口順子先生の御講話を拝聴し、子ども「一人一人」をどのように見取っていったらよいのかということについて学び取ることができました。本日は、本当に有難うございました。(教諭)
- ・やはり質問する人(ex.研究員)を決めておくべき。遠慮しているのがもったいない。(校長)

■ グループ毎の話合いについて(自由記述)

所属：幼児教育施設

《 20代 》

- ・幼保小の先生方と子どもたちの課題を共有できて、自分の保育に見通しを持つことができました。(教諭)
- ・幼小での話し合う時間をしっかりとつくれたことで、改めて気づかされる事が多くありました。来週から始まる2学期に活かしていきたいと思います。(教諭)
- ・具体的に話し合うことができすごく良かったです。(教諭)
- ・少ない人数でしたが、改めて連携の大切さを感じました。小学校との関わりを増やしていきたいと思いました。(教諭)
- ・他の園の子どもたちの様子や、課題とその解決策を知ることができてとても勉強になりました。(保育士)
- ・幼保小の課題はつながっていると感じた。情報を交換できよかったと思う。(保育士)
- ・保育所・小学校での課題を共有することで、今後の活動で気をつけるべきこと気付くことができました。(保育士)
- ・小学校との共通の課題や、1年生の様子を聞くことができ貴重な時間となった。(保育士)
- ・小学校の先生と身近にお話できる場が無いので、気軽に討論でき課題や疑問点について共通理解していくことができよかった。(保育士)

《 30代 》

- ・小学校の先生方の思いを知ることができて良かったです。(教諭)

- ・接続研修会の回数を重ねて、小学校区の先生方との話し合いもスムーズに行えているという印象がある。教師間のつながりも深まり良かった。(教諭)
- ・情報や課題を共有し、解決を探る短い時間でしたが貴重な機会でした。(教諭)
- ・大変勉強になりました。園は違っても「そうそう、そうだよね。」と共感できる場所が多くありました。(教諭)
- ・幼保小での課題やそれに対して教師が出来ることを話し合えたことが良かったです。(保育士)
- ・他の様子や考えを聞くことができて良かった。(保育士)
- ・小学校の先生と意見交換できて、とてもよい時間だった。今後の就学に向けての取り組みも合わせてやっていけたらと思う。(保育士)
- ・地域ごとにわかれてできたので、それぞれ意見を出し合えて良かったです。(保育士)
- ・話し合いをする機会はとても貴重です。他の意見を聞くことができるのは、自分自身の学びにもなります。(保育士)
- ・小学校、保育所で感じている課題が同じような内容だったので、それをどのように見直し、接続につなげていったらよいか、もっと合同の話し合いの場を持って、一緒にすすめていけたらと思う。(保育士)

《 40代 》

- ・課題への取り組みを他園から伺い勉強になりました。(教諭)
- ・情報を共有できてよかったです。(教諭)
- ・小学校区での話し合いでは、同じ課題を見つけたり、その解決策や方策を話し合うことができました。今後の交流に生かしていきたいと思います。(教諭)
- ・時間が短く、もっと小学校や他園の先生方と話し合いがしたかったです。(保育士)
- ・本来の目的他に、小学校の先生方の交流ができたのでとても有意義でした。(保育士)

《 50代 》

- ・同じ地区の小学校の先生と交流がもて、課題等も共有でき、大変有意義な時間でした。(園長)
- ・各施設の先生方と問題点・課題を共有・理解することができ大変良かったと思います。また、その課題に沿った解決策や教師の関わり方も検討でき、アプローチカリキュラム的な活動ができました。これからは生かしていきたいと思います。(保育士)
- ・交流して話し合えてよかったです。(所長・保育士)
- ・小学校の内容・様子をもっと色々聞いて知りたかった。(保育士)

所属：小学校

《 20代 》

- ・地区ごとに交流できるとしても良かったと感じました。話し合いの時間、まとめの時間が少しかったような気がしますので、もう少しあっても良かったかもしれないと感じました。(講師)
- ・本小学校に入学してくる子どもたちが通う保育所の先生方と、子どもたちの課題やつけさせたい力について話し合うことは、大変有意義であった。本校に来る子どもたちには、幼稚園からくる子どもたちも大変多いため、幼稚園さんとも一緒に課題を共有したかった。(教諭)

《 30代 》

- ・時間が短く、深く話し合いたい部分まで到達できなかった。(教諭)

《 40代 》

- ・とても参考になった。(教諭)
- ・共通の課題を共有できた。校区ごとの話し合いはとても有効だと思いました。(教諭)
- ・佐藤先生からの指導、講評の時間がもっとあればよかったですと思いました。グループの話し合いは、活発に意見が出されて良かったです。(主幹教諭)
- ・学校区で話し合うことで、自分たちの学区の「問題点が明らかになり、とても良かった。(教諭)

《 50代 》

- ・話し合いは充実しました。グループ後に接続という意味についてよくわかりました。(教諭)
- ・幼保の先生方と話し合ったり、他の学区の発表を聞いたりしたことは、たいへん参考になった。(教諭)
- ・幼稚園や児童館の先生方(若い先生方)が、とても積極的に意見を出して下さり、活発な話し合いができ、たくさん学ぶことができました。(教諭)

- ・よい機会を設けていただきよかったです。同じ方向で話し合いができました。(教諭)
- ・大谷幼稚園のことがよく分かりとても勉強になりました。幼・小の連携は、とても大切であると思いました。(教諭)
- ・だいぶ顔なじみになったので、今後は楽しみです。(校長)

■ その他ご意見やご要望等がありましたらご記入ください。

所属：幼児教育施設

《 20代 》

- ・ありがとうございました。(保育士)
- ・初めての年長児担任なので、このような研修があり心強い。クラスの子の今、これからについて、考えていきたい。(保育士)
- ・ありがとうございました。(保育士)
- ・ぜひ今後も、幼保小の交流の場や研修の場をつくってほしい。(保育士)

《 30代 》

- ・グループワークの時間がもう少し欲しかったです。(教諭)
- ・ありがとうございました。(保育士)
- ・幼保小の連携が色濃くなっていく中で、自分の知識も多く必要になっていくのだと、改めて感じています。(保育士)

《 40代 》

- ・連携はすばらしいので、ぜひ続けて頂きたいと思いました。(教諭)
- ・このように幼保小で共に考える機会が増えたことで、これまでより学校との距離が近くなり、課題共有ができる。(その他・行政)
- ・貴重な時間となりました。ありがとうございました。(保育士)
- ・またよろしく願い致します。(保育士)

《 50代 》

- ・二人の大学の先生のお話を聞くことができ、嬉しかったです。大変有意義な研修になりました。ありがとうございました。(園長)

所属：小学校

《 20代 》

- ・新学期準備のか境である時期を避けた方が、落ち着いて参加できるのですが…。それでも参加してよかったと思える研修会でした。ありがとうございました。(教諭)

《 30代 》

- ・同じ地区の学校の方とお話する機会はあまりなく貴重な経験になりました。情報共有の機会があるとありがたいなと思いました。大変ありがとうございました。(教諭)

《 40代 》

- ・授業の時期でなく有難い。(教諭)
- ・貴重なお話をありがとうございました。(教諭)
- ・グループごとの話し合いで出された他のグループの内容について知ることができれば参考にしたいです。(主幹教諭)

《 50代 》

- ・とてもよい研修でした。ありがとうございました。(教諭)
- ・とても素晴らしい研修会でした。できることなら、来年も参加したいと思っております。たくさん学ばせていただいたことに心より感謝申し上げます。(教諭)
- ・ありがとうございました。3年終了後の体制づくりをがんばってください。灯を消さぬように！(校長)